



2007年に三つの信用金庫の合併で誕生した、しののめ信用金庫(富岡市富岡)。本県の中南部を中心に県内外53店舗を展開し、長期的な視点で顧客と向き合う。基本理念に「愛本位主義」を掲げ、地域に密着した信用金庫らしさを追い求める。

求む人材

自ら考え、行動できる

「自主自発の精神」を持つ人材を求める。「お客さまとの信頼関係を築くためには『おせっかいは焼く』ことも大切。受け止める愛ではなく、相手のために行動できる愛があってほしい」と人事部



「明るく元気な人柄を大切にしたい」と話す 瀧本さん

「愛」と自主自発の心を



「夢を語ろう、手をつなごう。」をスローガンに、地域に寄り添うしののめ信用金庫

瀧本佳只さん(40)は強調する。

地域の職員を理想的な人材に育成することで地域に還元できると考え、キャリアアップに力を入れる。新人研修は入庫後に1カ月半かけて実施。ビジネスマナーや金融の基本的な知識から、支店

に設置されている端末の操作などの実践的な内容まで時間をかけて指導する。

研修後の支援体制も充実している。配属後はベテランの職員と年齢の近い若手職員の2人が教育担当としてフォローする。手厚い支援で力を伸

選べる職務コース

一押し 自身のライフスタイルに合ったキャリアコースを選べる人事制度を取り入れる。入庫後の6年間はキャリア形成期間として、全職員が基本業務の預金、融資、営業を経験。5年目の段階で、事務処理などの限定的な分野に特化するエキスパートコースか、職務を限定せず部下の育成などにもあたるマネージャーコースを選ぶ。

採用者数	2020年	14人
	19年	29人
	18年	23人
初任給	大卒	19万円
	短大	16万1000円
	高卒	14万9800円

企業や人の話 聞いて面接に

山内侃護さん(27)



金融は全くの素人だったので入庫前は不安だったが、1カ月半の研修で基礎から学ぶことができた。今では「山内くんだから」と地域の方に受け入れてもらい、新たな取引につながることもある。

先輩から

ばし、夏には1人で窓口に立つ新入職員もいる。夏季の宿泊研修に加え、月1回程度の交流会もあり、同期同士の交流も気を配る。

選考は人物重視。会社説明会に参加してもらい、適性検査を受けた後、

就活時は周りの人に内定通知が届く中、なかなかいい返事がもらえず焦った。その気持ちを分かち合ったり、情報交換できる友人の存在は大きかった。

自分を型にはめず、いろいろな企業や人の話を聞いてほしい。大学の先輩などすでに働いている人から話を聞くと仕事の具体的なイメージがつかめて、面接での受け答えもうまくいくはず。

安中市出身。富岡高一 高崎経済大卒。2015年入庫。

複数回の面接を経て内定となる。瀧本さんは「働くために必要な知識や技術は入庫後でも十分学べる。学生時代には学生だからこそできることに全力で取り組んでほしい」と話す。